**数研『改訂版 高等学校 地学基礎』（地基/104-901）観点別特色**

（1）内容

・全体として，詳しい内容が筋道立てて平易に説明されており，生徒が読みやすい記述になっている。また，随所に問いかけ文が配置されており，生徒が自ら考えて主体的に学習を進められるような構成になっている。写真，図は大きく，豊富に掲載され，また，複数の図を比較したり，写真と図を対応させたりして，資料から読み取る力を養えるよう配慮されている。

・前見返しと後見返しでは，各編の学習内容に関連するさまざまな写真が掲載されており，生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるよう工夫されている。

・節はじめには学習内容に関連する写真とともに，写真を題材とした問いかけ文が配置されており,また，本文中には適切な箇所に「考えよう」として問いかけがあり，教科書をただ読むだけではなく，立ち止まって考えながら主体的に学習できるよう工夫されている。

・本文中の「調べよう」では，自ら調べるという活動を通して学習内容をさらに掘り下げ，深い学びにつなげることができる。

・本文中の「思考学習」では，複数の図を比較したり，グラフから情報を読み取ったりすることで，理科の見方・考え方や思考力を養えるよう工夫されている。

・巻頭には「探究の方法」が設けられており，科学的に探究する技能を身につけられるような配慮がなされている。

・巻末の「自然災害 備えと対応の基本」では，各編で学習した自然災害に対し，具体的に発生しうる状況と対策が示されており，主体的に防災に取り組めるよう工夫されている。

・本文中の「コラム」では，他科目・他教科との関連や社会とのつながりを示すテーマが扱われており，学習内容の位置づけや将来の職業選択に役立つ内容となっている。また，「参考」は，本文と適切に関連づけながら幅広い知識が得られる内容となっている。

・「地学基礎」の学習指導要領に示されていない内容には，「発展」マークが付されており，本文とは明確に区別されている。また，発展の内容・分量ともに適切である。

（2）構成・分量

・本文は5編構成で，編の中に章，章の中に節（ 1 ， 2 ，…），節の中に項目（A，B，…）が繰り返される構成である。それぞれが適切な分量で区切られているため，授業計画の立案及び進行において支障がなく，生徒にとっても学習内容の位置づけを把握しやすいと考えられる。

・文章や図は見開きで完結しており，見やすく，授業の区切りをつけやすい。

・節はじめには「学習の目標」が設けられており，生徒が目標を意識し，見通しをもって学習できるようになっている。また，節末の「学んだことを説明してみよう」では，学習内容を生徒自身の言葉で説明することで自ら理解度を確認し，目標を達成できたかを振り返る構成になっている。

・地震災害・火山災害・気象災害などの日本の自然災害は，第1編～第3編に配置されており，関連する分野に続けて学習できるようになっている。さらに，第4編第1章の「 2 　日本の自然環境」では，各災害を横断的に学習できるようになっている。

・編末の「確認問題」では，学習した知識を確認することができる。また，「演習問題」では，その編で学習した内容が定着しているかを確認することができる。

（3）表記・表現及び使用上の便宜

・文章は平易かつ文節の区切りが明確であり，生徒にとって読みやすい。

・本文中の重要用語は太字にし，学習すべき内容が捉えやすくなっている。また，重要用語にはすべてルビが振られ，生徒の学習を助ける配慮がなされている。

・後見返しの折込を広げると，プレートの境界と運動方向を示した図や，陸地の状態が分かる衛星画像を参照することができ，本文中で地震や火山活動をプレート運動と関連付けたり，大気の大循環と陸地の状態を関連付けたりして学習するための便宜がはかられている。地史では，本文中の頁の上部に，地質時代が示されており，どの時代の内容を学習しているかを理解しながら進めることができる。

・教科書中のすべて問題に対して巻末に解答例が掲載されており，生徒の自学自習にも配慮されている。

・図版の色使いはカラーユニバーサルデザインに配慮され，本文などの文字は見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントが採用されている。

・B5変型判のため，図版や写真が大きく配置されており，ゆとりのある紙面で見やすい。

・用紙は丈夫で軽く，生徒の日々の持ち運びに負担がかからないよう配慮されている。

（4）その他

・教科書中のすべての実験に対して，二次元コードからアクセスできる実験映像が準備されており，操作や結果を実際に見ることで，理解を深め，技能を習得することができる。

・二次元コードからアクセスできるコンテンツに，世界のプレート分布，地形，地震・火山の分布を重ねて表示できるコンテンツがあり，深い学びや予習・復習などの自学自習にも活用できる。